



**レジ袋有料化**   
**2020年7月1日スタート**  
レジ袋削減にご協力下さい

**環境問題  
解決の  
第一歩**

プラスチックは非常に便利な素材で、あらゆる分野で私たちの生活に貢献していますが、その一方で、廃棄物・資源制約、海洋プラスチックごみ、地球温暖化などの課題もあり、私たちは、プラスチックの過剰な使用を抑制し、賢く利用していく必要があります。

このような状況を踏まえ、令和2年7月1日から、全国一律でプラスチック製買物袋、いわゆるレジ袋の有料化が実施されました。

皆さんも、レジ袋有料化をきっかけに自身のライフスタイルを見つめ直し、エコバッグを持ち歩くなど、できるところからプラスチックを賢く使う工夫をしてみましょう。



**エコバッグを持って  
街に出よう。**

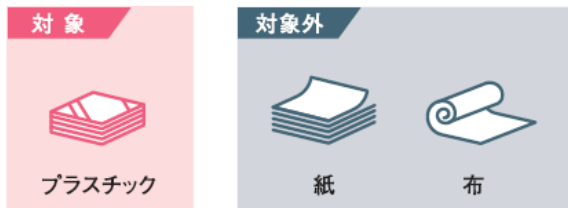


# 対象となるレジ袋

レジ袋というとスーパーやコンビニなどでもらう袋をイメージしますが、百貨店や衣類品などを購入したときにもらうプラスチック製の袋も対象になります。



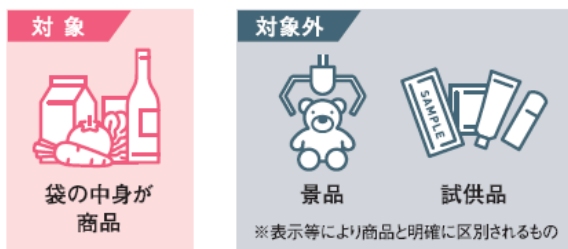
## 判断ポイント 01 / 素材



## 判断ポイント 02 / 持ち手



## 判断ポイント 03 / 商品を入れるか



## 判断ポイント 04 / 辞退できるか



※環境性能が認められ、その旨の表示があるものは、法令に基づく有料化の対象外です。

### 1. プラスチックのフィルムの厚さが50マイクロメートル以上



繰り返し使用することが可能なため、プラスチック製買物袋の過剰な使用抑制に寄与

【必要な表示】・フィルムの厚さが50マイクロメートル以上  
・繰り返し使用を推奨

### 2. 海洋生分解性プラスチックの配合率100%



海洋で分解するプラスチックであるため、海洋プラスチックごみ問題対策に寄与

【必要な表示】・海洋生分解性プラスチックの配合率100%  
・第三者による認定または認証

### 3. バイオマス素材の配合率25%以上



植物由来であるため、地球温暖化対策に寄与

【必要な表示】・バイオマス素材の配合率25%以上  
・第三者による認定または認証

# レジ袋有料化の目的

プラスチック製買物袋有料化の最大の目的は、私たちの生活に身近なプラスチック製買物袋有料化をきっかけに、「外出の際は常にマイバッグを携帯する」というような国民一人一人の前向きな行動変容に繋げていくことです。

プラスチック製買物袋有料化を良い機会として、一人一人が普段のライフスタイルを見直し、 unnecessary ワンウェイプラスチックの削減、ひいては海洋プラスチックごみ問題をはじめとする環境問題解決の第一歩となるよう、ご協力をお願いします。

## レジ袋削減の効果

### 廃棄物・資源の制約



国内におけるレジ袋の年間消費量は約 300 億枚以上と推計されています。

使い捨てのレジ袋が減ればごみが少なくなり、ごみ処理経費が削減できるだけでなく、レジ袋の原料である石油資源の節約につながります。

12 つくる責任  
つかう責任



### 海洋プラスチックごみの削減



プラスチック製品は、一旦海に入り込むと分解されるまでに 1,000 年以上かかり、2050 年には海のプラスチックの量が魚の量を超えられています。

レジ袋の有料化によってその流出量を減らすことができれば、海洋汚染の防止につながります。

14 海の豊かさを  
守ろう



### 地球温暖化の抑制



レジ袋は、製造から処分までの過程で一枚あたり約 33 g の CO<sub>2</sub> が排出されます。

レジ袋の有料化によってその量が減り、発生する二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) が削減されれば、地球温暖化の抑制につながります。

13 気候変動に  
具体的な対策を

